

国内の動物分野における AMR 対策の現状と対策  
農林水産省 消費・安全局 畜水産安全管理課  
川西路子

今般、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医療危機、社会経済的な危機が生じており、本感染症は人獣共通感染症であることから、人と動物等の保健衛生の一体的な推進（ワンヘルスアプローチ）の必要性に社会的な関心が高まっています。薬剤耐性対策についてもワンヘルスアプローチに基づき、医療、産業動物診療、小動物診療、農業生産、水産養殖、食品安全など広範囲な分野で相互に情報提供等を行いつつ、それぞれの分野で有効な施策を講じていく必要があります。

我が国では、平成 28 年 4 月に関係閣僚会議において、ワンヘルスアプローチに基づき、省庁横断的に取り組むべき対策をとりまとめた「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）」が策定されました。アクションプランは、①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗菌剤等の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力の各分野について、それぞれ目標と戦略、具体的な取組を記載しています。今回、これまで動物分野においてアクションプランに基づき実施した主な取組を紹介致します。

① 普及啓発・教育

AMR 対策を推進するためには、抗菌剤の使用者である獣医師や生産者の抗菌剤の適正使用・慎重使用、衛生管理の徹底等に関する意識や理解を深めて頂くことが重要です。これまでに、理解を深めて頂くためのツールとして、慎重使用に関するパンフレット、ガイドライン、動画等を作成、配布するとともに農林水産省のウェブサイトでも公開してきたところです。昨年度には新たに抗菌剤に頼らない養豚生産を実践している生産者の取り組みについての動画を農林水産省のホームページに掲載致しました。また、愛玩動物への対策として、「愛玩動物における抗菌薬の慎重使用の手引き」や抗菌薬の慎重使用に役立つツールを作成し、ホームページに掲載しています。



養豚生産



愛玩動物

② 動向調査・監視

従来から実施している家畜の薬剤耐性菌モニタリングに加え、2017 年より愛玩動物におけるモニタリングを開始しました。また、動物用抗菌剤の使用量調査に加え、愛玩動物において使用されている人用抗菌剤の使用量調査を実施し、これらの、調査結果について、2017 年から、厚生労働省と連携しワンヘルス動向調査報告書に公表しているところです。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

### ③ 感染予防・管理

動物の健康状態を良好に維持することで、抗菌剤の使用機会を減らすため、抗菌剤の代替となる動物用ワクチン等について実用化を支援し、これまでに1製剤が動物用医薬品として承認され、現場で使用されているところです。

### ④ 抗菌剤等の適正使用

食品安全委員会のリスク評価を受け、「抗菌性飼料添加物のリスク管理措置策定指針」に基づき、コリスチン、バージニアマイシン、タイロシン及びテトラサイクリン系2物質の飼料添加物としての指定をそれぞれ取り消しました。また、動物用医薬品としてフルオロキノロン剤、ツラスロマイシン製剤（豚用）、セフトオフル製剤、セフキノム製剤、硫酸コリスチン製剤、ガミスロマイシン製剤（豚用）については第2次選択薬としての使用に限定しました。

### ⑤ 研究開発・創薬

耐性菌の発生・伝播機序の解明や新たな予防・診断治療法などの開発に資する研究を農研機構動物衛生部門で実施しました。（第二部小林先生のご講演）

### ⑥ 国際協力

アジア地域の各国のAMR検査担当者を対象とした技術研修・セミナー（短期研修：計13カ国 長期研修：1カ国）を開催すると共に、コーデックス委員会、国際獣疫事務局、G7等の取組に積極的に参画し貢献しております。

なお、アクションプランには、対策の効果を測る指標として、2020年の健康な畜産動物由来大腸菌の薬剤耐性率を設定しています（表）。2016年～2019年において当該指標の大腸菌の第3世代セファロスポリン及びフルオロキノロン系の抗菌剤に対する耐性率は低い水準が保たれております。これらの薬剤については、引き続き第2次選択薬として慎重に使用するよう獣医師や生産者等関係者の皆様のご協力をお願い致します。一方、テトラサイクリン系の抗菌剤に対する耐性率は増減を繰り返しております。今後より一層の抗菌剤の慎重使用の徹底にご協力頂けますようよろしくお願い致します。

薬剤耐性対策に、引き続き、生産者、獣医師、都道府県等関係者の皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020年(目標値)
大腸菌のテトラサイクリン耐性率	45.2	39.8	47.6	40.8	43.6	44.3	33%以下
大腸菌の第3世代セファロスポリン耐性率	1.5	0.7	2.4	2.1	1.1	2.1	G7各国の数値と同水準
大腸菌のフルオロキノロン耐性率	4.7	2.7	5	4	4.7	5.1	G7各国の数値と同水準